

全国市町村教育委員会連合会表彰

令和2年5月19日付で、定久正義さんが全国市町村教育委員会連合会から表彰されました。

定久さんは、平成19年4月27日から12年間教育委員として、そのうち10年間は教育委員長として、鏡野町の教育行政に携わってくださいました。このたびの表彰は、教育振興に尽くされた、その功績が高く評価されたことによるものです。



第27期緑のふるさと協力隊委嘱状交付式

4月28日(火)、鏡野町役場応接室において、緑のふるさと協力隊着任式が執り行われました。今年度の協力隊には、静岡県出身の久保山健太さん、愛媛県出身の石村瑠理さんの2名が着任されます。式では山崎町長から委嘱状が手渡され、「お二人には、1年間鏡野町で羽を広げて、鏡野町の素晴らしい自然と、協力隊の先輩方の足跡を見つけていただきたいと思います。大いに楽しんで生活の営みの一端を探ってください」と歓迎の言葉が送られました。

緑のふるさと協力隊に就任された久保山さんは「この1年をずっと楽しみにしていて、充実した年にしたいと考えていますので、みなさんどうぞよろしくお願いします」と話され、石村さんは「いろいろなことにチャレンジしたいと思っています。多くの人のかわりからいろいろなことを学んでいきたいと思っていますので、みなさんどうぞよろしくお願いします」と意気込みを語られています。



中国防災工業よりマスクの寄贈

5月7日(木)、鏡野町役場応接室で、中国防災工業株式会社から新型コロナウイルス感染症対策としてマスク1万枚が寄贈されました。

寄贈された中国防災工業株式会社の原田代表取締役は「最近はずっと販売されるマスクの量も増えてきているが、それでもなかなか購入が困難ではないかと思う、微力ではあるが少しでも町の役に立てばと思い寄贈させていただきました」と話をされました。

マスクを受け取った山崎町長は「誰もが自分の身を守ることで手一杯ですが、中国防災工業さんの気持ちが形を変えて町民の皆さんに伝わります。町民の皆さんも大変心強く感じると思います」とお礼を述べました。



鏡野町社会福祉協議会より布マスクの寄贈

5月19日(火)、鏡野町役場応接室で、社会福祉協議会より布マスク926枚と新生児用ガーゼハンカチ30枚の寄贈が行われました。今回寄贈されたマスクやガーゼハンカチは、社会福祉協議会の方々が「自宅で作るボランティア」として取り組み、高校生から90代の方総勢約40名によって作成されました。

山崎社会福祉協議会会長は「学校や福祉の現場で働かれる職員や新生児の保護者の方に、気持ちを込めたマスクを贈呈いたします」とマスクを寄贈されました。マスクを受け取った武本教育長は「社会福祉協議会が作られた、この思いをしっかりと受け取らせていただきました。今後の状況を見ながらこのマスクが活用できるように現場として利用させていただきたいと思っております」と返答され、水島保健福祉課長は「新生児や次代の鏡野町を担っていく子どもたちが健康やかに成長できるように配慮した配り方をしたいと思っております」と話されていました。

